

【学年】2年	【教科・単元など】国語「お手紙」(全18時間)
【実践内容】 ○単元目標 ◎「だれが・どうした」に気をつけて、登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら読んだり、声に出したりし、二人の友情のお話を楽しむ。 【実践の概要】 ○学習の展開 1. 場面ごとに読みを深めながら、登場人物の気持ちを想像して読む。 2. 今までの学習を活かしながら、役を決めて音読発表会をする。 3. 登場人物に手紙を書く ○「知的好奇心」について 登場人物になりきって音読し、グループごとに発表会をすることで子どもたちの知的好奇心を引き出せるものと考えた。2年生のはじめの「ふきのとう」の学習でも、音読発表会を行った。その時にも、役になりきって体を動かしたり、発話したりことを楽しんでいた。そこでこの学習でも登場人物のかえるくん、がまくん、かたつむりくんになりきって音読発表会をグループごとに行うことにした。 また、このお話には場面ごとに挿絵が出てくる。その中の最初の挿絵と最後の挿絵は、かえるくんとがまくんが、同じ階段で腰掛けているものである。ただ表情などが少しずつ違う。その違いを発見することを導入として、なぜ最初と最後の表情が違うかを、読みの目標として読み進めていくことにした。 さらに、気持ちを想像する手立てとして、挿絵に吹き出しをつけたり、心情曲線を使ったりした。	
【子どもの様子・反省】 導入で似た挿絵を見たとき、子どもたちは「本当だ。」「ほとんど同じだ。」と驚きの声をあげていた。その2枚の絵の違いを見つけることを楽しみながら行った。次に、その表情から「さみしそう。」「幸せそう。」「仲良しな感じ。」などと様子を想像していった。そこからなぜという疑問が生まれ、読み進めるめあてができた。 読み進めるときにも挿絵に吹き出しをつけて、気持ちを書き込んでから、文で確かめていった。同時に心情曲線を書いていった。心情曲線も話し合うきっかけとなり、読みが深めることになった。(すごくさみしいとかさっきの場面よりは元気になったなど) 音読発表会でも、読みを活かしてがまくんやかえるくんになって音読することができた。友達があまりに上手に読むと思わず笑顔になっていた。	